

令和2年11月実施

事業所名 児童発達支援 和こう

		チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	37.5%	37.5%	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・定員、スペースを適切に保つことができるように人数配置等工夫して行っているが、朝の会や昼食時等、保育室内が狭く感じる ・子ども同士のトラブルや怪我が起きないように、コーナー遊び等の環境設定を行い、分散して遊ぶことができるようにしている ・子どもの行動範囲や見守り等を考慮すると、狭く感じる ・子どもの特性を生かし、個人個人がゆったりと遊ぶことができる小空間のスペースがあると良い ・適切ではあるが、子どもの特性を考えると、もう少し広さを確保することができれば良い
	2	職員の配置数は適切であるか	25.0%	31.3%	43.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する個別対応が難しく感じる場面が多いが、職員が増えたとして、それに対する対応ができるかはわからない ・個別的な対応を必要とする子どもが多く、職員の数は多い方が良いと感じる ・他部署からスタッフが応援にきてもらうことで、子どもたちの安全に過ごす環境を整えられている現状がある ・適切ではあるが、子どもに対する個別的な対応を行う時は、足りないと感じる
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	87.5%	6.3%	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に対応する事ができるように、構造化や視覚的支援が更に行える環境であると良い ・絵カードやマークによって、子どもに対してわかりやすいように構造化されている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	81.3%	12.5%	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室や遊戯室の広さ、部屋の数の確保が必要になってくる ・午睡をしない子どもが過ごすための、小スペースの空間があると良い
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	37.5%	12.5%	50.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・PCDAサイクルを行ってはいるが、限られた時間の中で報告や相談、改善に向けての振り返りを行うことが不十分な時がある

業務改善	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	75.0%	0.0%	25.0%	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等に公開しているか	56.3%	0.0%	43.8%	<ul style="list-style-type: none"> 会報やホームページ掲載事項を、もう少し増やすことができるとう良い
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	25.0%	6.3%	68.8%	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	68.8%	6.3%	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加する機会を増やし、もっと学びを深めていきたい ケース会議の機会を定期的に設けることができるようになれば良い 資質の向上を図るため、個人で学びを深める機会を設けている
適切な士	10	アセスメントを適切に行い、子どもの保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	81.3%	0.0%	18.8%	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	43.8%	18.8%	37.5%	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	62.5%	12.5%	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な内容が出せておらず、今後は更にわかりやすい内容を具体的に設定していく必要がある
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	75.0%	0.0%	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> 支援目標や内容等、スタッフ間で共有している 現状の把握が上手くできていない
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	68.8%	0.0%	31.3%	<ul style="list-style-type: none"> 現状の把握が上手くできていない

又 援 の 提 供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	50.0%	12.5%	37.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をし、日々の活動プログラムを考えて実施している ・現状の把握が上手くできていない ・感染症拡大防止のため、今までできていた活動が難しくなった
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	75.0%	0.0%	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の把握が上手くできていない
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	75.0%	0.0%	25.0%	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	56.3%	12.5%	31.3%	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	87.5%	0.0%	12.5%	
	20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	68.8%	0.0%	31.3%	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	81.3%	0.0%	18.8%	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	50.0%	0.0%	50.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健がどの機関に当てはまるかわからない 	
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	56.3%	0.0%	43.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・医療との連携はすごく良く取れている 	
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	56.3%	0.0%	43.8%		

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	75.0%	0.0%	25.0%	・電話や訪問を通じ、情報の共有を行っている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	75.0%	0.0%	25.0%	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	37.5%	6.3%	56.3%	・感染症対策のため、今年度はそのような機会を設けることが難しい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	43.8%	25.0%	31.3%	・和こうを専用で利用している子どもに対して、交流の機会を設けることは難しい ・感染症拡大防止のため、年に一度設けられていた機会を設けられなかった
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	25.0%	25.0%	50.0%	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	81.3%	0.0%	18.8%	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	37.5%	12.5%	50.0%	・行っている ・保護者に対して不十分な部分がないように、質の向上に努めている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	62.5%	0.0%	37.5%	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	81.3%	0.0%	18.8%	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	81.3%	0.0%	18.8%	

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	62.5%	0.0%	37.5%	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速にかつ適切に対応しているか	81.3%	0.0%	18.8%	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	87.5%	0.0%	12.5%	・園だよりを毎月配布をしている
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	93.8%	0.0%	6.3%	・個人情報の取り扱いには十分に気をつけているが、対応に関して不安を感じる
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	75.0%	0.0%	25.0%	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	18.8%	31.3%	50.0%	・感染症拡大防止のため、例年通りの行事を行うことができなかった
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	56.3%	12.5%	31.3%	・有事の際の行動マニュアルが、より具体的な内容であると良い ・訓練は毎月実施しているが、保護者に対して具体的な活動内容を周知することができていない ・園だより等で、災害種別の避難訓練の活動内容を伝達することができるという
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っているか	68.8%	6.3%	25.0%	・感染症拡大防止のため、訓練が十分に行えていない ・施設全体の更に具体的な避難訓練の必要性を感じる
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	93.8%	6.3%	0.0%	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	#####	0.0%	0.0%	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	#####	0.0%	0.0%	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	81.3%	0.0%	18.8%	

	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	81.3%	6.3%	12.5%	
--	----	--	-------	------	-------	--

アンケート配布人数 16 人 回収人数 16 人 回収率 100 %

《 今年度の振り返りと評価 》

①地域交流の充実を図り、情報発信をきめ細やかに行います

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた療育参加や親子行事、地域のこども園との交流等、実施することができませんでした。

日々の療育については、ほぼ毎日、療育中の写真を連絡帳に貼ることで「日中の様子がよくわかる」と高評価をいただきました。今後も一人ひとりの発達の姿に注目し、療育の工夫に努めたいと考えます。

②療育の質及び職員の質の向上を目指します

リモート研修や事業所内研修、全体での勉強会の実施など、これまで不十分であった伝達研修を中心に、職員全体への周知を意識し情報共有に努めました。特に感染予防については、徹底して取り組むことができました。

個別支援計画については、現在複数のアセスメントツールを参考にして作成しており、今後は統一したアセスメントシートを作成する必要があると考えます。また、個別支援計画の項目に「家族支援」の内容を取り入れ、ペアレントトレーニングの充実も図りたいと考えます。

③当事業所での避難訓練に向けて取り組みを継続します

避難訓練については、今年は感染予防から集合・密着することを避けたため、職員のみの実施となりました。また、今年から当センター全体で防災ミーティングを毎月開催し、非常災害についての意識向上、課題の整理など、今後の訓練実施に向けて準備を行いました。今後も継続し、様々な災害を想定した動きが取れるよう検討が必要だと考えます。

《 今後に向けての改善目標 》

①集団活動における個別支援の充実を図ります

個別の発達支援の充実とともに、集団活動（人とのかかわり）における一人ひとりの目標やチャレンジを明確にします。また、きめ細やかな支援となるよう、かかわる職員がしっかりとその目標を把握し、評価する機会を設けていきます。

②専門職種を活かした療育提供、家族支援の充実を図ります

各種専門職（看護、リハビリ、栄養、保育等）からの見立てを充実させ、日頃の支援に活かせるよう連携を図ります。合わせて適切なアセスメントツールを作成できるよう検討していきます。

また家庭内療育にも注目し、ご家族が無理なく取り組むことができるよう協働していきます。

③避難訓練に向けて取り組みを継続します

通所における様々な場面での非常災害を想定し、訓練の実施に向けて検討を重ねます。また訓練の様子を記録にとり、ご家族へのお伝えできるよう取り組みます。